



# みどりの風

No.69 発行日 令和5年 3月30日

## MIDORI NO KAZE

H.P <http://akaneen.com/>

### 未来に向けて ～35年を基盤に～

あひるの会後援会  
代表 国松 実枝子

日頃、あひるの会後援会に対して、ご理解ご協力を頂きまして御礼申し上げます。

創立35周年を迎えたのを機会に、後援会の来し方を振り返り、未来に向けての抱負を示しておきたいと存じます。

設立当初は「友の会」として発足し、法人あひるの会を側面から支える活動をしてきました。

約一億円近い設立借入金を少しでも早く返済したいと、毎年コンサートの開催等で平成18年には完済いたしました。勿論あかね園の保護者会や就労者親の会の多大な協力があつたからでもあります。

活動内容の明確化のため「友の会」から平成30年に「後援会」に名称を変更しました。一番の目的はあかね園の運営が円滑に行く為の援助、グループホームの増設資金であり、また会員の勉強のために後援会主催の研修会等を実施してきました。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

ひとり一人の人間を大切に、多様な存在を認め合う社会を望ましく思う者として、SDGs（持続可能な開発目標）の目標は物事を進めてゆく拠り所となります。

ゴール3  あらゆる年齢の全ての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する

ゴール4  全ての人に包摂的かつ公平な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する

ゴール8  全ての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する

後援会としても誰でもが尊重され、生きがいのある人生を送れる社会を願ひ続けます。

あひるの会では、設立時に「法人のめざすこと」として5つの項目が掲げられています。

- ・働く気持ちを育てる
- ・働く場所をつくる
- ・仲間と一緒に働く
- ・親と死別したあとも
- ・お互いに資金を拠出する

これら「法人のめざすこと」を後援会も添いながら様々なかたちで法人の活動を支えてきました。

そして現在、あかね園では約40年使用してきた本体施設の建て替えが求められています。

建設当初から利用者は3倍に増員され（職員は7倍）新しい分野のサービスも増え、現在は隣接する企業のご厚意で賃貸の社屋を使用しているのが実情です。

以前から新築の為の建設積み立て資金準備を進めてきましたが、ウクライナ情勢も影響して予定していた見積もりが大幅に高くなりました。あかね園の園生達には良好な環境で働いてもらいたいと思っており、また、これまで600名以上の企業へ就職していった卒園生達が年齢を重ねてから「戻る場所」としても整備が必要です。

法人あひるの会は本人や家族にとって切れ目のない支援「長期伴走型の多機能サービス」が最大の安心につながっています。企業に就職してもプラットホームとしての園の役割は続いているのです。いわば一生ものなのです。

コロナ禍で途絶えている研修会も、好評だった参観やテーマ別の懇親会等、是非再開させねばなりません。

気付きや学びは人間成長の糧でもあります。

人は誰でもたとえ遅くとも自分の足で歩み、前進すれば満足度、幸福感が得られます。

成長への希望を持ちつつ、園生と指導員とは共に良好な関係を続けています。

これからの後援会の役割の大切さを自覚し、慎重に年月を重ねていきたいものです。あかね園を見守ってくださいます会員の皆様、協力していただいております企業の皆様に感謝し、今後ともよろしくお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

# 皆様のご支援に感謝

あかね園統括施設長 松尾 公平

昭和61年6月に「社会福祉法人あひるの会」が認可され、「あかね園」着工の運びとなりました。以降、あかね園の土地（1650㎡）の購入費用7,800万円の借金と利息の返済は、後援会（旧友の会）からの毎年の寄付のお陰もあり、20年が経過した平成18年ようやく完済となりました。

以降、「今を支える（借金の返済）」から「将来に向けて（備え）」と後援会はその役割の舵を大きく切り、社会福祉法人あひるの会とあかね園は多大なる支えを頂き、ここまでの発展を遂げることができました。そしてこの十数年は、ご家族からの「家庭では難しい生活面の訓練を」「一人暮らしに向けた準備を」「親亡き後に備えて」等、生活面や居住の支援に対する多くの要望に応えるべく、法人でもグループホーム事業の充実を図ってきました。このグループホームの整備には物件確保やオーナーとの出会いを逃さず数を増やし、また建物を確保してからは設備や入居希望者との調整等、開所に向けた準備をスピーディーに進めていく必要があり、資金の支援は欠かせないものでした。

現在、法人が有する7ヶ所のグループホーム（サテライト含む）や短期入所（ショートステイ）は様々な条件をクリアして実現してきたわけですが、こういった背景には後援会による「緊急的な財政支援」と「将来に向けての積み立て」という2本立ての法人への備え（支え）があったからに他なりません。

そして、これまで法人活動の拠点であるあかね園本体施設の建て替えの準備が本格的に始まり、間もなく40年が経過する建物自体は老朽化だけでなく一部東日本大震災の影響も残る中、

開設当初から利用者の定員は3倍、職員も7倍と規模を大きくし、利用する方達の「障がい」や「生きづらさ」の多様化に併せ「加齢、高齢化」による支援の個別化が高まる中で「広さ」だけではない、「相談の場」や「静かな環境」等のプライベート空間や手すりやエレベーター等の「バリアフリー」機能がより必要となってきました。

40年前より建築技術も大きく進歩し、次の建物は少なくとも50年は使用することを想定していますので、現在の課題だけではなく、これからの利用者や家族の変化に法人のサービスを重ね合わせるのかなり先を見据えた整備計画となります。（建て替え計画の詳細は次ページに）

そして、今回の「建て替え工事」は新しい建物を造るだけではなく、現在の建物を壊し（その間はお隣京葉測量さんの別館を使用予定）、その上に新園舎を建てることとなりますので、開設時より手間も時間もかかります。

今回の建て替え工事は現建物の解体費用、新建物の建設、備品、諸経費等を含めると約7.6億円の予算となっております。（ウクライナ情勢等の影響から当初予算より1億円以上高騰しました）

これら総費用を①法人で4千万円（後援会をはじめとした長年の寄付金等）、②あかね園で約2.5億円（毎年度の収益の積み立て）③国庫補助金が約2.7億円、④福祉医療機構からの借り入れが2億円という資金計画で賄うこととしており、後援会の存在の大きさを実感し感謝の言葉もありません。

改めて、今後の返済も含めた引き続きのご支援につきまして、ご協力を何卒宜しくお願い申し上げます。



## 「障がいがあっても地域で働く、暮らす」を支える為の活動の目的と位置づけ

法人あひるの会  
(社会福祉法人)

あかね園の全てのサービスは「社会福祉法人あひるの会」の法人運営の下で実施されています。

あかね園  
(障害福祉サービス)

各サービス（自立訓練・就労移行・就労継続・就労定着・グループホーム等）～地域で働き、暮らす為の訓練と長期にわたるサポートを実施します～

保護者会

(あかね園 在園生の親の会)

「地域の中で働き、暮らすための力」を家族と共に育み、支える活動～園と家庭とが一体となり、本人の成長を後押しする環境を整えます～

今（現状）の  
安定と支え

就労者親の会

(あかね園 就職者の親の会)

「企業の中で働き続ける」を園と家庭で共に支える活動～就労後の学びや仲間との繋がりを大切に成長を止めない支えを～

将来に向けての  
準備、備え

後援会

(社会福祉法人 後援会)

高齢化や親亡き後等、本人達や家族の「これから」に目を向けた活動～グループホームの整備や本体施設の建て替え等への備え～

完成イメージ図(外観)



# あかね園本体建物 建て替え計画について

ここからは法人初となる本体施設の建て替え工事の計画概要についてお伝えします。  
(着工までには国庫補助金の申請が下りるか否か、それ以外にも超えなくてはならないハードルも多く、早ければ今年度11月の着工となりますが、状況次第では年単位で計画が延期となる可能性もある事を前提にお読みください)

計画している園舎は鉄骨造の3階建て(延床で約1,350㎡ ※ちなみに現在は2階建て802㎡)。  
現在のあかね園舎が建つ土地に新たに建築する予定です。

今回の建て替え計画においては主に4つの点(機能)を重視しました。



完成イメージ図(1F 玄関入口)

## 安全性：防災(防火・耐震)、防犯、バリアフリー等の機能

防火対策や大規模な地震、津波警報を想定しての対策、不審者等の侵入を防止するための高いセキュリティ設計となっています。

そして、利用者の高齢化へは全館の手すり、多くの着座スペース、エレベーターの設置等、全館がバリアフリーの構造となり、皆さんに長く安心して通ってもらえる環境が整います。

## 個別性：多様な障がいや多岐となる個別の事由等に対応していくための機能

個人面談や静養できる部屋を各所に整備、作業や講座、レク等も全事業単位の規模から十名程度のグループ単位、さらに小人数など内容や参加者に合わせた環境設定が可能となります。

保護者や卒園生達を対象とした集いやサークル活動等のできる交流スペースも予定しています。

## 利便性：時間やスペースの効率を高め、日課を充実するための機能

利用者の特性や年齢、日課に合わせた各室導線の配慮により、移動距離や移動時間が短縮され日中の時間にも「ゆとり」と体力面での「省エネ」も期待できます。

また、現在各所にある多くの備品等もきれいに収納され、見た目も使い方もすっきりとなります。

## 快適性：「ゆったり」、「静かに」、「暖かく」、「涼しく」、「わかりやすく」

館内は木目調のデザインで、窓の数も大幅に増え、明るく、暖かみのある雰囲気となります。換気機能ももちろん、廊下にも冷暖房が入り、季節問わずこれまでよりも快適に過ごして頂けます。

3階には最大80名が一同に介せる大食堂(ホール)やその横には127畳ものウッドデッキ調の(海や富士山が望める?)バルコニーもあり、天気良ければ、皆で外の空気を吸いながらゆったりとできる空間も楽しみです。



完成イメージ図(3F 食堂ホール)



### 建物概要(予定)

- 1F 受付事務所、作業室①～③(連結可)、相談室①、トイレ、更衣室 等
- 2F 事務所、応接室、相談室②～④、交流スペース(大会議室)、医務室、トイレ、更衣室 等
- 3F 食堂兼ホール、厨房、多目的室、バルコニー、トイレ 等
- 4F 屋上(高さ約12m)

(統括施設長 松尾)

## 保護者会活動報告

保護者会は、2月に今年度第3回保護者会定例会を行いました。今回は広い会場を借り、3年ぶりに全事業（自立訓練、就労移行支援、就労継続B型）の会員が一同に会しました。あかね園から今年度の総括のあと、さまざまな年代の保護者で構成された少人数のグループに分かれ「今の心配、これからの心配」をテーマに話し合いをしました。定例会は、園の方針や各事業の動向などを知り、現状把握や今後の見通しを持つことができる学びの場であり、また交流の場でもあります。

保護者の交流の場として、定例会以外に、保護者会と就労者親の会の会員によるサークル活動があります。長くボランティア活動を行ってききましたが、2年前にボランティア活動は一区切りとし、自分たちが楽しむためのサークル活動に転換しました。手芸サークル、折り紙や体操のサークルがあり、興味のあることを通して集いの場になっています。昨今は連絡を取り合うだけであれば便利な媒体が数多くあります。けれど、コロナ禍を経験し、顔を合わせて話をする事の大切さを改めて感じたのではないのでしょうか。

今後も、私たちはあかね園の理念である「障がいがあっても長く地域で働き暮らす」への理解を深めるとともに、あかね園を軸にますます保護者の輪が広がることを期待します。

保護者会事務局 原田 章江

## 第3回あかね園就労者親の会定例会報告

令和5年3月8日（水）午後1時30分より。トーセイホテル研修室にて。

参加者・就労者親の会会員58名で開催しました。

第一部定例会：岡崎会長、あかね園園長、支援センターからのお話、各担当からの報告連絡等の後、数年ぶりのコーヒータム（ケーキ付）もありました。

第二部研修会：松尾園長はじめ5名の先生方出席のもと、前回（昨年11月）研修会で親同士の話し合いのテーマ等に、今回先生方からアドバイスが頂け、とても内容の濃い時間でした。

主な項目は、金銭問題、自立について、兄弟関係について等々。

失敗することを恐れ、親はお金や生活を管理するのではなく、色々体験し、その中で自己決定することを身に付けるのが大事。本人の気持ち、希望を置き忘れてはいないかと言う話に感銘を受けました。出席者からのアンケートでも、あかね園に所属してよかった。金銭や生活を本人に任せるようにしようと思う。本人の気持ちを第一に、親がすべてを決めないで楽しく生活出来るように家族と話し合いたい等の意見がありました。先生方の言葉は私達に届きました。本人は自分の体調不良や親の不調などを上手く伝えられないこともあります。地域と関わって、自分の事は自分ですという事も大切です。でも、困った時はまず、あかね園に相談してくださいと松尾園長は話されました。本当に心強い事です。親の会は“つながる”をテーマに活動しています。あかね園と繋がり、仲間と繋がる大切さを再確認する会でした。

就労者親の会副会長 佐藤 淑子

## 園日誌

今井 智絵



あかねホームで短期入所事業（ショートステイ）のサービスが始まり4年が経過しました。私自身はサービス開始当初から携わらせて頂き、年々新しい方々に利用していただけていることをとても嬉しく思っています。

声をかけてもらうことも増え、「体験してみたい！」と意欲的な方もいれば、「家を出るのは不安です」とやや消極的な方もおり、様々な気持ちを抱えて私のもとへ利用の相談に来てくれます。ホームと聞くと「自由がなさそう」「大変そう」というイメージをもつ方もいるようですが、まずは実際に見学をす

ることで、ホームのあたたかい雰囲気や世話人さんと面倒見の良い先輩入居者の人柄に触れ、皆さん安心して前向きな気持ちになれるようです。

ホームで見せる彼らの表情はあかね園内や職場とはまた違った一面を見せてもらえることが生活支援の面白さだと思っています。ひとりひとりに合わせた支援の形を考えながら一緒に挑戦し、その中で私も経験を積んで成長していきたいと思っています。

リピート率が高いことがあかねホームの短期入所の一番の強みですので、初めての方は是非一度見学から挑戦してみたいと思います。

## 後援会へのご入会を お願いいたします。

一般会員（年間一口 3,000円） 法人会員（年間一口 10,000円）  
郵便振替 00260-1-88365 口座名：あひるの会後援会  
銀行振込 千葉興業銀行 津田沼支店 普-4771251  
口座名：社会福祉法人あひるの会 後援会 代表 国松実枝子  
入会申込み、問合せは事務局まで  
047-452-2715 Fax 047-452-2693

## 編集後記

今年度も後援会事務局としての活動は各自在宅での作業という制限されたなかでの一年間でした。コロナを取り巻く環境が変わりつつあるなか、変わらぬご支援をいただき感謝いたします。（K）

編集人 あひるの会 後援会代表 国松実枝子  
発行所 社会福祉法人あひるの会 後援会  
〒275-0024 習志野市茜浜3丁目4番5号